

次世代の育成



深谷市長
新井家光

いまだ寒さは厳しいところですが、立春という言葉を見ると、心に暖かさが宿る気がいたします。前日の「節分」に食べる豆は、自分に訪れた春の数を表すものでもあります。

春は、土の中からも、その訪れを見ることができます。厳冬に蒔かれたエンドウ豆の小さな若葉が、霜の立つ黒土から顔を出し始めています。新たに受け継がれた、生命の息吹が感じられます。

エンドウ豆はまた、生命の連鎖の解明に大きく寄与したことで有名です。今から145年前のオーストリアで、司祭であったグレゴール・ヨハン・メンデルは、来る日も来る日もエンドウ豆の種と格闘していました。メンデルはエンドウ豆の形態に注目して交配実験を行い、形態の遺伝が一对の遺伝粒子を仮定することで説明できることを発見しました。つまり、遺伝形質は交雑とともに液体のように混じり合っていく

混合遺伝ではなく、遺伝粒子（後の遺伝子）によって受け継がれるという粒子遺伝を提唱したのです。次世代に受け継がれていく遺伝子が明確になったことで、親から子、子から孫への責任が明確になったともいえます。

本市では平成17年度より、「子どもの笑顔があふれる子育て応援のまちふかや」を基本理念とした「深谷市次世代育成支援行動計画」を策定し、このたび後期計画の作成に着手いたしました。すべての家庭が子育てを通して、生活に喜びと安らぎを感じるとともに、未来を担う子どもが健やかに成長していけるよう、地域全体で子育てを応援していくまちづくりを進めてまいります。

遺伝現象は複雑ですが、メンデルは遺伝をつかさどる要素（遺伝子）の存在を証明し、遺伝現象が単純な法則で説明できることを明らかにしました。子育ても、本来は単純で素朴なはずです。素朴で単純だからこそ、一粒の豆の育成には、土のぬくもり、良好な土壌が大切です。子育ての土壌である社会的サポートを、われわれは責任を持って行ってまいります。

立春の 日のうつくしく 風少し
佐藤 漆人

一緑をはぐくみ・楽しむ地域づくりー

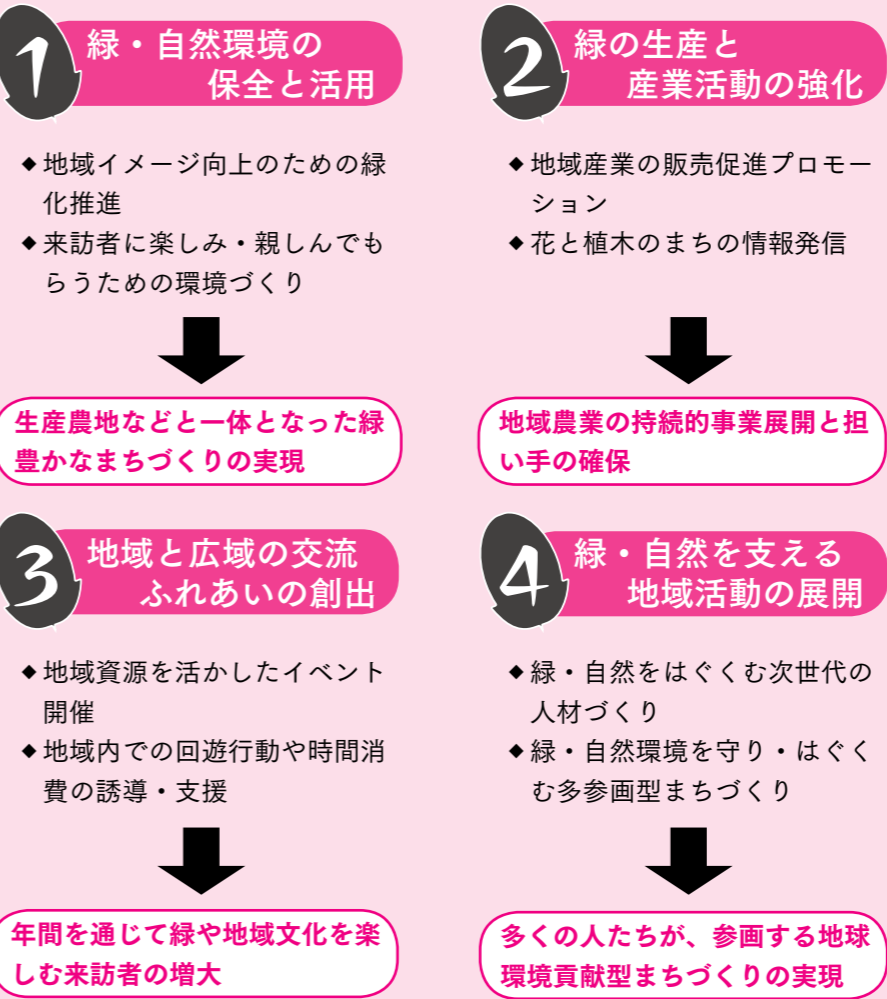
ふかや 緑の回廊

■問い合わせ 協議会事務局・花園商工会 (☎ 584-2325) 農業振興課 (☎ 574-6648)

1月14日に、花園・藤沢地区の活性化計画である『ふかや緑の回廊』基本構想が策定されました。

『ふかや緑の回廊』基本構想は、植木や花きの一大産地である花園・藤沢地区の特色を活かした「緑によるまちづくり」を目指すことにより、地域産業全体の活性化を図ろうとするものです。

今後は、地域産業の育成と地域の活性化を推進するため、下の4つの基本方針に基づき、地域にお住まいの皆さんや地域の事業所などが参画・協働しながら、この地域へ多くのかたがたに訪れていただけるよう、ふかや緑の回廊推進協議会を中心に、さまざまな事業を実施し、魅力あるまちづくりを展開していく予定です。



『ふかや緑の回廊』基本構想の策定に当たっては、商工業関係者や農業関係者、自治会といった地域住民の皆さんが協議会を立ち上げ、検討を重ねました。1月15日には、協議会から新井市長へ、策定された基本構想の完成報告がされました。

「沈思黙考」ワンポイント解説

深谷市次世代育成支援行動計画（後期計画）へのご意見を募集します

市では、平成17年度に深谷市次世代育成支援行動計画（前期計画）を策定し、次代を担う子どもが、健やかに育つための環境づくりを進めてきました。このたび、市では後期計画（平成22年度～26年度）を策定するに当たり、より一層の子育て支援の充実を図るため、市民の皆さんから広く、ご意見を募集します。

対象 市内在住か在勤・在学のかた

閲覧および意見の募集期間 2月17日(水)まで

閲覧場所 市ホームページ、児童課、市役所本庁舎市政情報コーナー、各総合支所福祉健康課、各子育て支援センター

意見の提出方法 市ホームページおよび閲覧場所にある意見書、または任意の用紙（氏名、住所、電話番号の記載は必須）を使用し、次のいずれかの方法で提出してください。

① 児童課または各総合支所福祉健康課の窓口へ提出

② 郵送、ファックス、Eメールで、児童課へ提出

問い合わせ 児童課 (☎ 574-6646・☎ 574-6647・☎ 574-6648) 仲田 11-1-1 @idou@city.fukaya.saitama.jp

